



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第53号(2009年8月14日)

「日本の国際競争力」

今回は、日本企業の国際競争力について取り上げていきたいと思います。日本企業には、果たしてどの程度世界で勝ち抜く力があるのでしょうか。

実は、日本の国全体としてみると競争力はそれほど高くありません。EU委員会の経済データベースEU KLEMSの調査によると、技術力と生産性を測る指標の一つとして使われている、経済成長率から資本と労働の貢献分を引いた全要素生産性(TFP)の1995年~2004年の数値は、日本が年率0.4%と米国の1.6%を大きく下回っています。

しかし、電気通信機器製造業だけ見てみると日本が7.4%であるのに対し、米国は6.8%と、日本のハイテク産業の競争力が非常に高いことが分かります。一方で、それ以外の分野は軒並み米国の数値を下回っております。このことから、日本には国際的に非常に高い競争力を持つ産業がある一方、技術力が低く、生産性が悪い産業に資金と労働力を使うことで、国全体の競争力を低下させてしまっていると考えられるのです。

今後、国としてはこのような非効率を是正していく必要があると考えられますが、投資に当たってはこうした非効率と思われる分野には投資を行わないことも可能です。高い技術力、生産性を持った企業だけに絞り込んで投資を行えば、より高いパフォーマンスが期待できると考えるため、多くの企業の中から、限られた少数の優れた企業を探し出して投資する必要があると考えております。

そして既に国際的な競争に勝ち抜いた企業に投資するよりも、近年新たに海外進出を始めた企業が今後世界で成長していく過程に投資を行なうことがより大きな成長が見込めます。しかし残念ながらそのような企業は日本に数多く存在せず、限られた少数の企業だけが新たな国際優良企業となることができると考えられます。そのような企業を見つけ出すことが大きな投資の成果を出すための方法の一つなのではないでしょうか。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。